

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 東京学芸大学附属国際中等教育学校（※正式名称を記載）

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒178-0063

練馬区東大泉 5-22-1

E-mail kenkyu@tguiss.jp

Website http://www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp/

幼児児童生徒数 男子 281 名 女子 450 名 合計 731 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「多様で異なる人々と共生・共存でき、進展する内外の国際化の中で活躍する力を持った生徒を育てる」を学校理念として、ESD の実践をしてきた。具体的には、国際理解、人間理解、理数探究を柱に、本校独自の学習領域である「国際教養」を実施した。

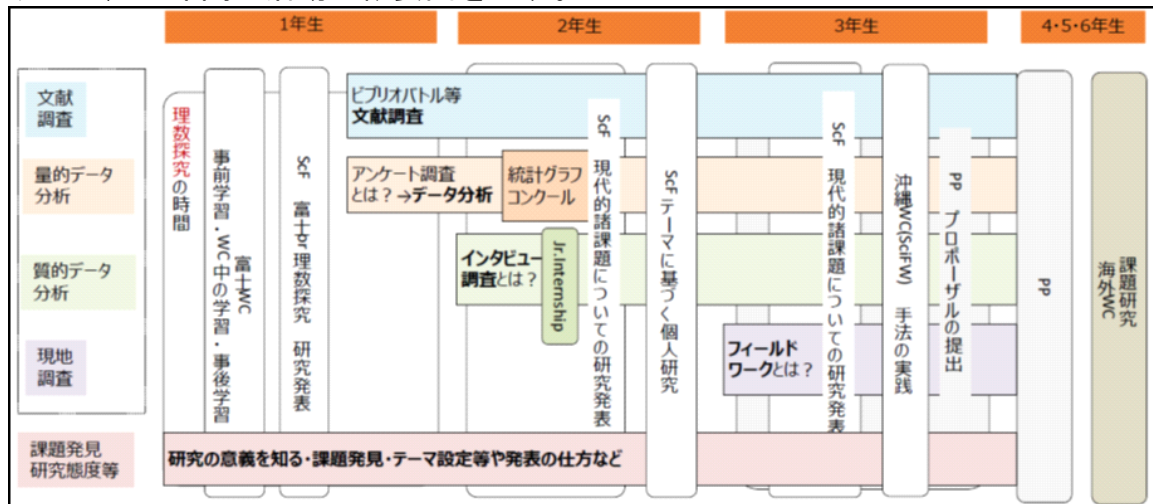
① 国際教養の実施

学習領域「国際教養」では、国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題についての総合的な学習を通して、主体的・協働的に課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を養うことを目的とする。

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。

2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

以下に、6年間の活動の概要図を示す。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 課外活動)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

岡本尚也 (2017), 『課題研究メソッド』, 啓林館

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、カリキュラムの中に「国際教養」という学習領域を設定し、ユネスコスクールとしての活動を実践している。国際教養には、以下の3つの柱を設定している。

○国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。

○人間理解…社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。

○理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点からとらえ、社会に活用していく方法について考える。

各学年の週当たりの国際教養のコマ数は以下の通りである。

1年	6コマ/週	2年	5コマ/週	3年	6コマ/週
4年	2コマ/週	5年	2コマ/週	6年	2コマ/週

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌として「国際教養委員会」を設置し、各学年の国際教養をリードしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

生徒および教員の変容を捉えるために、質問紙調査を実施した。本年度は、特に本校で導入している国際バカロレアプログラムで設定している ATL スキルの伸長について特徴的な結果が得られた。具体的には「転移スキル」に対する意識が強くなった。転移スキルとは、別の分野で身に付けたスキルや教科学習の学習成果を転移・応用できる能力のことであり、課題研究を進める上で、授業で習ったことの活用場面が多くあったことを生徒が述べている。一方、「情動スキル」が伸び悩んでいるのが今後の課題となる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

授業研究会の実施。

平成29年11月23日(金)に授業研究会を実施。

公開授業だけでなく、生徒課題研究の発表等も実施した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

大学や研究所等の外部機関から専門家を招き、生徒課題研究に資する講演会やワークショップを行った。

平成29年度の実施例

- ・ 東京都市大学環境マネジメント学部 教授
- ・ 上智大学 外国語学部 教授
- ・ 国税庁 東京国税局 国際調査課
- ・ 三菱一号館美術館キュレーター 等

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

課題研究やボランティア活動など生徒の主体的な活動が活性化された。
特に課題研究については、外部発表等への参加が増えた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 29 年度までと同様に、学習領域「国際教養」を実施していく。

具体的には、3(1)の活動概要で示した概要図に加え、「課題研究」に関わる内容としては、以下のことを行う。

- 前期課程では、現代的な諸課題について理解を深める際に生じる「問い」を追究しながら、文献調査・量的データ分析（アンケート調査）・質的データ分析（インタビュー調査）・現地調査（理数探究フィールドワーク）の一端を実践するとともに、課題発見のための技法なども学習する。
- 4 年生では、各自の興味・関心や問題意識に基づき、また、前期課程で学習してきた課題解決のための方法（研究方法）を統合して活かす場、またこれまでに培ってきた ATL スキルを活用・伸長する場として、Personal Project (PP) に取り組む。その成果も積極的に発信する。
- 5 年生・6 年生では、これまで学習・探究してきたことの集大成として、各自の問題意識に基づいて「課題研究」に取り組む。成果を積極的に発信し、社会に貢献するところまでを目指す。